

アオギリ前。ピアノ追悼演奏 平和記念公園

広島で原爆に遭った「被爆ピアノ」で原爆犠牲者を追悼するコンサートが5日、広島市中区の平和記念公園で開かれた。近くには原爆投下後も生き残り、復興の象徴となった「被爆アオギリ」の木があり、東日本大震災の被災地復興への願いも込めた。

ピアノは仙台市の松葉睦子さん(85)が所有。8歳の時に買ってもらい、猛練習の末に東京音楽学校(現・東京芸大)に合格した。原爆投下時、松葉さんは草津(広島市西区)の実家に



被爆アオギリの前で演奏される被爆ピアノ(広島市中区の平和記念公園で)＝柘田直也撮影

にいて無事だったが、ピアノは爆心地から3.5キロの翠町(南区)の夫の実家にあり、割れた窓ガラスの破片が背面に突き刺さった。2003年に修理を受けたが無数の傷と、最大約3センチのガラス片3個が残る。神戸市の市民団体が借りて各地で公演、昨年9月には米ニューヨークの国連本部でも演奏された。

昨年続くコンサートでは、国連本部でピアノを弾いた林琢也さん(47)らが演奏。松葉さんは「ピアノはずっと一緒にいた恋人のよ

うなもの。被災地救済に少しでも役立つなら、うれし」と語った。演奏を聞いた広島市の被爆2世、立川千恵さん(53)は「原爆に耐えたピアノのように、被災地も復興に向けて力強く進んでほしい」と願った。6日は、午前8時15分から同市区の広島流川教会で演奏会がある。

岩手、宮城の中学生 平和記念資料館訪問

東日本大震災で被災した岩手、宮城両県の中学生らが5日、平和記念公園内の広島平和記念資料館を訪れた。岩手県釜石市立釜石中、同県大槌町立大槌中、宮城県南三陸町立志津川中の計46人で、原爆被害と廃虚からの復興に学び、故郷再建への思いを新たにした。被災地支援を続ける国際医療NGO・AMDA(アムダ)(岡山市)などが2

側のを望で広島を訪れた。

ボランティアの案内で資料館を回った生徒らは「一発の爆弾で街は壊滅し、すべてが焼かれた」との説明に聞き入り、公園内の被爆アオギリや原爆供養塔を見学。釜石中3年の小川真夏斗君(15)は「被爆した街が、被災後の自分たちの町と似ていて驚いた。多くの人の助けで今があり、これから自分たちが復興を支えていきたい」と話していた。